

十勝毎日新聞

発行所
 十勝毎日新聞社
 〒080 帯広市東1条南8丁目
 電話=編集②2121、広告
 ②2323、総務・販売②2222
 ©十勝毎日新聞社 1987

宇宙誘致への提言

を設け、福原勉大樹町長に委
 員長になってもらい調査研
 究、普及PRを推進したが、
 今年八月の国際宇宙移動大学
 開催などで一気に機運が盛り
 上がった。またこの間、横路
 孝弘道知事にお会いし、十勝
 と道が密接な連携のもとで取

十勝圏航空宇宙産業基地構
 想研究会会長
 田本 憲吾氏 (58)



十勝圏航空宇宙産業基
 地構想研究会が発足(六十
 一年八月)してから一年四
 カ月が経過してはいますが、
 これまでの取り組みについ
 てお聞かせ下さい。
 地元は受け皿作り
 一九五七年に、連が世界初
 の人工衛星を打ち上げた時
 はまるで多幸のようを感じ
 ていたが、日本でも徐々に身
 近に思えるようになってき
 た。これからは日本も宇宙の
 探査から利用へと切
 り替わろうとしている。そこ
 で日本のスペースシャトル、

スペースブレイクの基地の候
 問題ではなく十勝全域の課題
 補地として大樹町の名が急浮
 上し、これは一町で背負える
 た。研究会の中に企画委員会
 体制を整えることを確認し合

粘り強く定着化図る

市新新総計にも織り込みへ

身によつてはスペースフェア
 の六十五年度開催がズレ込む
 ころが世界にまで大樹町の
 名がクローズアップされて
 います。誘致実現に向けて
 の今後の取り組みは、
 フェアが推進力に
 何といつても六十四年四月
 がスペースブレイク開発に
 必要だ。現在は米国、欧州の
 足元にも及ばないくらいだ
 ます、住民の理解が得られ
 るようなPR活動ですね。宇
 宙シャトルはそれなりの
 効果を上げ、これからは粘り
 強く定着化を図らなければな
 りません。それには青少年の関
 心を喚起するYAC(宇宙少
 年宇宙基地を念頭に置いた街)
 として帯広市の果たす役割
 についてお聞かせ下さい。
 現在策定作業に入っている
 新新帯広市総合計画の中にも
 盛り込まれるような働き、二
 兆円などを見ても決して実
 現できない数字でもなく、ま
 だスペースブレイクが開発
 された無駄遣いにもならない。
 せながら宇宙開発はその園
 となる。新しい政策大綱の中
 の発展のパロメーターと見え

年団の活動を、より活発な
 ものにしなければと思う。ロ
 ケットエンジンや風洞実験の
 研究機関、企業の誘致も行う
 必要がある。地方自治体の機
 構の中にも宇宙関係の専門職
 員の配置も検討しなければな
 らない。宇宙基地、産業の張
 り付きは十勝の産業構造を大
 きく変えるだろう。日本の一
 大開発プロジェクトがこの十
 勝で行われれば、その波及効
 果は想像をはるかに超えるも
 のになるだろう。ぜひとも実
 現させたいものだ。
 (おわり)
 略歴 昭和四年、樺太内幌
 町生まれ。日大工学部卒。四
 十九年四月、帯広市長選初当
 選。現在四期、十勝総合開発
 促進期成会副会長。

年間キャンペーン目指せ宇宙基地 第七部